

総合計画進行管理シート

戦略PJ名		育てる1 笑顔あふれる親子が育つまちプロジェクト		主管課		こども家庭センター		関係課		児童青少年支援課、保育課			
取り組みの方向				地域の子育てネットワーク形成									
取り組みの展開													
内容		STEP1: ネットワークの地盤形成		STEP2: ネットワークの形成・活動支援				STEP3: ネットワークの拡大					
		地域の子育て支援団体と行政との連携による事業や親子と地域の交流の場づくり等、子育てネットワークの地盤となる関係づくりを進めます。		市民や子育て支援団体による子育てネットワークの形成を支援するとともに、自主的な活動に対しての支援をします。				地域や事業者等との多様な協力関係づくりへの支援により、子育てネットワークのつながりと取り組みの拡大を図ります。					
関連実施計画		実施計画事業名		達成状況		実施計画事業名		達成状況		実施計画事業名		達成状況	
		子育て世帯サポート事業		B		子育て支援センター運営経費		B		こども家庭センターにおける相談体制の強化		C	
		子育て短期支援事業		B									
① 主管課による一次評価		STEP1の進捗状況		B		STEP2の進捗状況		B		STEP3の進捗状況		C	
		【1. 達成状況】 保健師や助産師等の専門職が訪問し家事を行う子育て世帯サポート事業や、日中や夜間に子どもを一時的に預かる子育て短期支援事業を開始し、子育てのサポート体制強化を図るとともに、地域子育て相談機関を設置することで、地域で子育てを支える地盤づくりに取り組んだ。				【1. 達成状況】 市内を拠点に子育て支援活動を行う新たな市民団体が立ち上がった。立ち上げにあたって、活動内容等について相談に応じるとともに、継続的に職員派遣や玩具の貸し出し等の活動支援を行っている。また、関係団体との連絡会の開催等、事業者とのネットワーク作りに取り組んだ。				【1. 達成状況】 令和6年にこども家庭センターを設置した。令和7年より新たな民間資格となったこどもソーシャルワーカーを配置することで、子どもを取り巻く家庭の複雑な課題に対応できるよう体制強化を図っている。			
		【2-1. 課題】 子育て支援センターの利用者は年々増加しており、相談件数も増加しているが、各保育園で実施する地域子育て相談機関の利用者は少ない状況である。移動手段がなく子育て支援センターへ来所できない方や子育てに孤立する方が、より身近な場所で相談や交流ができ、育児負担感を軽減できるよう取り組む必要がある。				【2-1. 課題】 各団体の活動や抱える課題などについて把握できていないことから、関係団体が抱える課題等を把握し、共有することで横の繋がりを強化し、地域の子育て支援の輪をさらに広げるとともに、利用者数を増やす取組が必要である。				【2-1. 課題】 生活環境の多様化により保護者が抱える課題も複雑化しており、こどもの年齢とともに課題も変化していく中で、長期的な課題を抱える家庭が多い。地域や事業者との多様な連携が必要である。			
		【2-2. 課題への対応】 より身近な子育て支援の場である地域子育て相談機関について、対象者へ周知・啓発を行うとともに、今後必要な支援について検討していく。				【2-2. 課題への対応】 団体の活動の場へ出向き、現状を把握するとともに、継続的な活動の支援を行う。また、市公式LINEやInstagram等のSNSを活用し、活動支援を行っていく。				【2-2. 課題への対応】 市が抱える課題について事業者等と共有する場を設け、新たな取組みや支援について検討していく。			
② 企画課による二次評価		STEP1の進捗状況		B		STEP2の進捗状況		B		STEP3の進捗状況		C	
		支援が必要な家庭に対する取組みなどにより、子育てネットワークの基盤形成・サポート体制の強化が着実に進められている。 対象者への周知・啓発に力を入れ、制度が利用されることで、育児負担感の軽減の取組みを進めていただきたい。				子育て支援を実施する市民団体に対して、活動内容の相談対応等の支援が進められている。 今後は、現状把握と継続的な支援に加え、SNSを活用した情報発信や支援体制の充実等により、対象者への周知・啓発による利用者数増加に向けた取組みを進めていただきたい。				地域や事業者との多様な連携に努めていただきたい。 また、市と事業者等で課題や情報を共有する場を活用し、新たな取組みや支援策の具体化に向けて検討を進めていただきたい。			
③ 外部評価		STEP1～3の進捗状況（評価： B ）											
		【評価コメント】 ・全体的に進んでいるが、今後もさらに取組みを進めていただきたいので、B評価とする。 【要望・意見】 ・保育園に通っていても子育て支援センターを活用している人もおり、両方でしっかり連携できている。 ・母親にとって一番つらいのは孤独である。仲間の作り方がわからない人も巻き込んでいけるよう、気軽に入れる組織があると良い。 ・今後は、STEP3の内容をさらに進めていっていただきたい。											

【進捗状況A～D】

A: 順調に推移した(目標達成又は進捗している)

C: 進捗が遅れている(目標達成が遅れる可能性がある)

B: 一定の進捗がある(目標達成に向け一定の進捗がある)

D: 進捗が大幅に遅れている(目標達成が難しい可能性がある)

総合計画進行管理シート

戦略PJ名	育てる1 笑顔あふれる親子が育つまちプロジェクト	主管課	こども家庭センター	関係課	児童青少年支援課、保育課
-------	--------------------------	-----	-----------	-----	--------------

取り組みの方向		非認知能力の向上支援				
取り組みの展開						
内容	STEP1:取り組みの普及		STEP2:家庭での取り組みの普及		STEP3:取り組みの拡大	
	行政を主体とした非認知能力向上のための講座の開催や保護者への理解促進により、非認知能力の普及啓発を図ります。		各家庭で取り組める非認知能力の向上に向けた取り組みへの支援を進め、自発的・継続的に取り組みが行われる仕組みづくりを進めます。		地域や市民団体、企業等と連携した、より発展的な非認知能力の向上の取り組みが行われる仕組みや環境づくりを進めます。	
関連実施計画	実施計画事業名		達成状況	実施計画事業名		達成状況
	非認知能力向上事業		B	非認知能力向上事業		B
① 主管課による一次評価	STEP1の進捗状況		B	STEP2の進捗状況		B
	【1. 達成状況】 講座は継続的に開催できており、夫婦での参加も増えている。子どもの年齢に合わせてコミュニケーション講座から育児講座へとステップアップしての参加や、リピーターもいる。講師による講座研究も学会に提出し効果測定もできた。保育士研修は、市内の保育園職員のほとんどが受講できており、非認知能力の普及が進んでいる。子育て世代が活用するSNSであるインスタグラムでの周知も始めた。			【1. 達成状況】 現行の2種類に加え、新たにプレパパ・ママ用の非認知能力についてのリーフレットを作成し、母子手帳交付時を中心に配布している。新規動画の作成はしていないが、子育て世代の入れ替わりもあることから、非認知能力の基礎が継続的に根付いている。		
	【2-1. 課題】 興味があっても保護者が対象時期に職場復帰をしていて受講まで結びつかないことがある。なお、受講後に各家庭で学んだことを実践できているのか把握が難しい。また保育士向けの研修もほとんどの保育士などが受講済みの状況のため、内容を変える必要がある。			【2-1. 課題】 リーフレットの配布はしているが、実際に動画視聴まで進めているかが把握できていない。保育士研修で非認知能力の学びへの効果測定が必要である。保育士や子育て世代以外への非認知能力の浸透が難しい。		
	【2-2. 課題への対応】 講座の実施曜日・時間を調整するとともに、講座の周知場所を保育園・幼稚園にも新たに展開し、参加者の増加を図る。保育士研修も内容をステップアップさせて実施し、更なる理解促進と実践に繋げる。			【2-2. 課題への対応】 サロン室での動画視聴、他施設や子育て支援団体でのリーフレット配布、他のSNSでも動画紹介をして、更に広く周知する機会を作り、利用者に向けてのアンケートも実施する。保育士研修は受講後期間を空けて効果測定としてのアンケートを実施する。また、保育士研修の参加枠を子育て支援団体まで拡大していく。		
② 企画課による二次評価	STEP1の進捗状況		B	STEP2の進捗状況		B
	継続的な講座の開催、保育園職員向けの研修により、非認知能力の普及に向けた取り組みが着実に進められている。 参加者やリピーターが増加しているものの、講座の実施日程の調整や保育園や幼稚園での周知拡大により、参加者のさらなる増加に努めていただきたい。 また、保育士研修の内容の深化を図るなど、促進する施策の検討に引き続き取り組んでいただきたい。			対象者への周知・啓発に取り組んでいただくとともに、その他の方々への理解促進についても検討していただきたい。 また、動画についても、周知拡大に努めていただきたい。		
③ 外部評価	STEP1～3の進捗状況（評価： B ）					
	【評価コメント】 ・全体的に進んでいるが、今後もさらに取り組みを進めていただきたいので、B評価とする。 【要望・意見】 ・「広報」には「戦略」が必要であり、もれなく、きめの細かい広報の実現、すなわち参加していない家庭にも情報が届くよう、SNS等を活用して周知を徹底していただきたい。 ・アンケートの結果をもとに事業評価を行い、反省点を明らかにすることで新たな気づきを得ることができる。次年度の事業計画を検討する際には、アンケートの意見を十分に踏まえていただきたい。					

【進捗状況A～D】

A: 順調に推移した(目標達成又は進捗している)

C: 進捗が遅れている(目標達成が遅れる可能性がある)

B: 一定の進捗がある(目標達成に向け一定の進捗がある)

D: 進捗が大幅に遅れている(目標達成が難しい可能性がある)

総合計画進行管理シート

戦略 PJ名	稼ぐ3 あやせ農場プロジェクト	主管課	農業振興課	関係課	—
-----------	-----------------	-----	-------	-----	---

取り組みの方向		稼ぐ農業の推進							
取り組みの展開									
内 容	STEP1:仕組みづくり		STEP2:観光との連携の強化		STEP3:稼ぐ農業体制の構築				
	農畜産物のブランド化の推進に向けた体制と仕組みづくりを進めます。		道の駅を拠点とした新たな直販所等の観光スポット化に向けた支援・仕組みづくりを進めます。		販路拡大とブランド化、「農」の魅力向上等により農業の「稼ぐ」体制を構築します。				
関 連 実 施 計 画	実施計画事業名		達成状況	実施計画事業名		達成状況			
	農産物利活用促進事業		C			家畜ふん共同処理施設の運営支援	B		
	農家の労働力不足の解消を目的とした援農ボランティア養成事業		B			認定農業者支援事業	B		
						耕畜連携推進事業	C		
① 主 管 課 に よ る 一 次 評 価	STEP1の進捗状況		B	STEP2の進捗状況		A	STEP3の進捗状況		B
	【1. 達成状況】 ・1件のマッチングに成功し規格外品を利用した新規商品の販売を実施することができた。 ・8件の農家から派遣要請はあったが、天候不順や別業者の委託があり目標人数に達しなかった。			【1. 達成状況】 ・市役所1階市民ホールにおいて、毎月1回新鮮な綾瀬産農産物を販売する「地産地消フェア」を開催し、魅力をアピールでき、市民に好評であった。また、農業者にも収入にもつながっている。 ・市役所や、市外（横浜、藤沢）のスーパーで、綾瀬ブランドにも認定している「菜速あやせコーン」の販売会及び販売促進を行い、市民や他市にPRを行った。			【1. 達成状況】 ・施設が適切に運営され、近隣への臭気対策等に配慮し良質な堆肥を生産し、市内の農家が堆肥を活用できる体制を維持することができた。 ・新規3名の認定農業者認定を行った。 ・飼料用米収穫量は計画を下回ったが、落合地区でも耕作が行われ、遊休地削減のための水田の有効活用を推進することができた。		
	【2-1. 課題】 ・商品を開発するにあたり、商品開発しやすい野菜に限られていることによる、マッチングのしにくさが問題となっている。 ・派遣要請を利用している農家が固定化している。			【2-1. 課題】 ・月1回平日のみの開催のため、地産地消フェアや綾瀬産農畜産物の認知の更なる向上が課題となっている。 ・例年市役所での販売のため、新たな販売場所が必要である。			【2-1. 課題】 ・飼養頭羽数の減少等により、堆肥を生産するための原資が減少している。 ・新規農業者だけでなく既存農業者に続けてもらえる仕組みを考える必要がある。 ・飼料用米耕作で十分な収益を得るためには国の補助事業を活用する必要がある。		
	【2-2. 課題への対応】 ・引き続き利用しやすい野菜をピックアップし提案を継続していく。 ・援農ボランティア制度について農家に広く周知するとともに認定農業者で援農ボランティアの活用を考えている農家に周知する。			【2-2. 課題への対応】 ・土曜日や日曜日に開催するイベントと併せて「地産地消フェア」を開催することで、市内外問わず広く綾瀬産農畜産物を周知する。 ・市の他のイベントに併せ、出張販売する。			【2-2. 課題への対応】 ・市内耕種農家が良質な堆肥を活用できる体制を維持していく。 ・認定農業者の優位性を説明し、申請をしてもらうように促していく。 ・国の制度変更等を注視しながら、水田の有効活動の手段のひとつとして活用できるように制度の検討をしていく。		
② 企 画 課 に よ る 二 次 評 価	STEP1の進捗状況		B	STEP2の進捗状況		A	STEP3の進捗状況		B
	規格外品を利用した新規商品の開発・販売の取り組みが進められている。 今後は、引き続き利活用しやすい野菜の提案をしていただくとともに、利活用しにくい野菜についても民間企業や農家と連携して様々なアイデアを共有する等、マッチング件数が増えるよう努めていただきたい。 また、講座の受講者数は目標値を超えているが、援農ボランティア制度についてより広く周知を行うため、チラシやHPでの周知に加えて、関係者への説明を継続して行うことや効果的な周知方法の検討を行っていただきたい。			地産地消フェアは市内外から多くの方が訪れており、新鮮な綾瀬産農産物の魅力を効果的にアピールされている。 また、菜速あやせコーンの市外での販売会等により更なる認知度の向上に繋がっている。引き続き、より多くの方に綾瀬産農畜産物の魅力を知ってもらえるよう、実施日時や場所、回数等を検討していただきたい。			新規認定農業者が増加しており、取組みが着実に進められている。また、臭気対策にも配慮し良質な堆肥生産と農家の活用体制が維持されている。 認定農業者のメリットを広く周知するとともに、国の動向を注視するなど、活用できる制度は積極的に活用していただきたい。		
③ 外 部 評 価	STEP1～3の進捗状況（評価： B ）								
	【評価コメント】 現在実施している事業に加えて、さらに農業の魅力を伝えるための施策の検討が必要のためB評価とする。 【要望・意見】 ・収益性が高く、綾瀬市の気候に合った農畜産物の調査・研究を進めていただきたい。 ・テレビやSNSを活用したメディア戦略を行ってはどうか。 ・無人販売を充実させることで売り上げに繋がる。 ・援農ボランティアにも給料を発生させる等、意欲のある方に対する更なる支援を検討してみたいかがか。								

【進捗状況A～D】

A: 順調に推移した(目標達成又は進捗している)

C: 進捗が遅れている(目標達成が遅れる可能性がある)

B: 一定の進捗がある(目標達成に向け一定の進捗がある)

D: 進捗が大幅に遅れている(目標達成が難しい可能性がある)

総合計画進行管理シート

戦略PJ名	稼ぐ3 あやせ農場プロジェクト	主管課	農業振興課	関係課	農業委員会事務局
-------	-----------------	-----	-------	-----	----------

取り組みの方向		農業への新規参入の支援				
取り組みの展開						
内 容	STEP1:サポート体制の整備		STEP2:営農活動の持続に向けた支援		STEP3:担い手としての定着・活躍支援	
	地域によるサポート体制を整備し、新規就農しやすい仕組みづくりを進めます。		新規就農者の営農活動への支援体制を構築し、継続して営農できる環境づくりを進めます。		就農後に早いうちから担い手として活躍できる環境づくりを進めます。	
関 連 実 施 計 画	実施計画事業名	達成 状況	実施計画事業名	達成 状況	実施計画事業名	達成 状況
	利用集積の拡大事業	B	新規就農者支援事業	D		
			新規就農者の育成を支援するサポーター農家への支援	B		
① 主 管 課 に よ る 一 次 評 価	STEP1の進捗状況		STEP2の進捗状況		STEP3の進捗状況	
	【1. 達成状況】 ・農作業や農地の管理を任せたいという農地所有者と、経営規模の拡大を図る農業者に農地の利用集積を実施し、農地利用の最適化を推進した。		【1. 達成状況】 ・補助対象となる新規就農者はいなかったが、該当する就農希望者がいる場合には営農開始の後押しとなる。 ・1件の補助対象者がおり、綾瀬での新規就農を希望しているが、就農開始は再来年度を予定していることから新規就農者とはならなかった。		【1. 達成状況】	
	【2-1. 課題】 ・農業者の高齢化に伴う耕作者の減少と、借手と貸手のマッチングの難しさがある。		【2-1. 課題】 ・新規就農の希望人数自体が減少していること、また、希望者がいる場合でも、希望する営農形態に合う農地がない。		【2-1. 課題】	
	【2-2. 課題への対応】 ・引き続き農地流動化奨励金の制度内容・単価拡充について、チラシなどを用いて、制度の周知をしていく。		【2-2. 課題への対応】 ・引き続き制度周知の為に、窓口での新規就農相談を継続するとともに、チラシ、HPでの周知を行っていく。		【2-2. 課題への対応】	
② 二 次 評 価	STEP1の進捗状況		STEP2の進捗状況		STEP3の進捗状況	
	農地所有者と農業経営者の間で農地利用集積の取組みが着実に進められている。 マッチングの難しさが課題とされているが、制度の周知拡大に努めていただきたい。		本市での新規就農を希望する人が減少している原因を調査するとともに、希望者が増えるような取組みや制度の周知拡大を検討していただきたい。			
③ 外 部 評 価	STEP1～3の進捗状況（評価： B ）					
	【評価コメント】 現在実施している事業に加えて、農業の魅力を伝えるための施策が必要なため、B評価とする。 【要望・意見】 ・農家の方が学生に対して農業の魅力を語る場を設けるなど、何か工夫することで心に響くものがあるかもしれない。稼ぐ農業を推進しつつ、営業する農業を取り入れてみてはいかがか。 ・目標としている新規就農者数をさらに高くしてはいかがか。					

【進捗状況A～D】

A: 順調に推移した(目標達成又は進捗している)

C: 進捗が遅れている(目標達成が遅れる可能性がある)

B: 一定の進捗がある(目標達成に向け一定の進捗がある)

D: 進捗が大幅に遅れている(目標達成が難しい可能性がある)

総合計画進行管理シート

戦略PJ名	支える1 アクティブ・シニア応援プロジェクト		主管課	高齢介護課	関係課	—
-------	------------------------	--	-----	-------	-----	---

取り組みの方向 元気高齢者の就労希望の実現						
取り組みの展開						
内容	STEP1: 就労支援の普及拡大		STEP2: アプローチの拡充		STEP3: 成功モデルの蓄積・活用	
	より効果的な就労希望実現に向けた調査・検証を進めるとともに、就労支援体制の普及・拡大を図ります。		就労に無関心な高齢者へのアプローチの強化や、現役世代から応援窓口に関わる仕組みづくりを進めます。		取り組みの中で創出された就労希望実現の成功モデルを基に、新たな就労形態の拡大や横展開が可能な仕組みづくりを進めます。	
関連実施計画	実施計画事業名	達成状況	実施計画事業名	達成状況	実施計画事業名	達成状況
	シルバー人材センター運営補助金	B	ライフプランニング支援事業	B		
① 主管課による一次評価	STEP1の進捗状況	B	STEP2の進捗状況	B	STEP3の進捗状況	B
	【1. 達成状況】 ・コーディネーターによる独自求人の開拓を行うとともに、丁寧なヒアリングによる求職者の希望に沿った就労支援を行った。 ・シルバー人材センターへ運営補助金を交付し、高齢者の就業機会の増大、生きがいの充実を図った。 (実績) アクティブ・シニア応援窓口(就労)でのマッチング件数: R7 107件、R6 67件 シルバー人材センター会員数: R7 532人、R6 552人		【1. 達成状況】 ・無関心層(アクティブ・シニア応援窓口を知らない方)へのアプローチについては、スマホ教室や市老連理事会など、高齢介護課所管イベントなどでのチラシの配付と事業説明を行った。 ・現役世代へのアプローチとして、主に30代～60代を対象に老後の資産形成等に関する講演を行うライフプランニングセミナーの開催や、かながわ信用金庫及びシルバー人材センターと連携し、スキルアップやライフプランに関する相談を受けるライフプラン形成支援相談窓口を開設した。 (実績) ライフプランニングセミナー R7 25人、R6 21人 ライフプラン形成支援相談窓口 R7 0人		【1. 達成状況】 ・求職者の年齢や希望する勤務時間や仕事内容などにより、ジョブスポットあやせ及びシルバー人材センターと住み分けを行いながら、ニーズにあった就労の実現を図った。 ・他自治体の事業を参考に、企業等と連携してアクティブ・シニア応援窓口を利用して就労した方の就労先を中心に、実際の仕事ぶりを見学するとともに、職業体験などを行う事業を令和8年度から開始するように準備を進めた。 (実績) アクティブ・シニア応援窓口(就労)でのマッチング件数: R7 107件、R6 67件	
	【2-1. 課題】 物価高等の影響により就労ニーズが、生きがいづくりから生活費の確保などに変化しつつある。 シルバー人材センターの会員数が減少し続けており、将来的に業務受託等の対応が困難になる可能性がある。		【2-1. 課題】 令和7年度に実施したアンケートにおいてセカンドキャリアの資金に対して不安を抱えている方も多いことから、現役世代に対するアプローチを継続することが重要。 ライフプラン形成支援相談窓口及びライフプランニングセミナーに関しては、周知方法や運営方針等に関しても見直しが必要。		【2-1. 課題】 高齢者雇用安定法の影響による就労希望者の高齢化に伴い、就労決定率が減少している。	
	【2-2. 課題への対応】 ジョブスポットあやせやシルバー人材センターと連携し、多様な就労ニーズへの対応を図るとともに、各組織の周知及び活性化を図る。 また、現役世代へのアプローチを強化し、定年後の資金等に対する課題意識を醸成し、定年後には生きがいづくりを目的とする就労が可能な環境整備を図る。		【2-2. 課題への対応】 無関心層や現役世代への広報として、市公式LINEによる発信などを行う。 形成支援相談窓口に関しては、キャリアアップ等に関する一部窓口を閉鎖し、社会情勢等を反映した現役世代へのアプローチ方法を検討する。		【2-2. 課題への対応】 後期高齢者等でも就労可能な就職先の新規開拓に注力するとともに、職業体験を通じて、就労に繋がる経験の蓄積と就労決定率の改善を図る。	
② 企画課による二次評価	STEP1の進捗状況	B	STEP2の進捗状況	B	STEP3の進捗状況	B
	アクティブ・シニア応援窓口でのマッチング件数が大幅に上がっていることから、着実に就労支援が進められている。 今後は、シルバー人材センターの会員になるメリット等を広く周知するなどの取組みを検討していただきたい。		早期にセカンドキャリアについて考えることの利点のほか、簡素な言葉など、よりわかりやすい内容での周知に努めていただきたい。 また、無関心層や現役世代へのアプローチとして、広報あやせや市公式LINEを活用するなど、周知拡大を図っていただきたい。		引き続き、高齢者の就職先をより開拓するとともに、求職者への様々な提案に努めていただきたい。	
③ 外部評価	STEP1～3の進捗状況 (評価: B)					
	【評価コメント】 ・事業の進捗としてはB評価とするが、社会状況の変化や法律の改正に応じて、施策の方向性を調整していただきたい。 【要望・意見】 ・生きがいの他にも生活費の確保を目的とする方もおり、高齢者の考え方が変わっている。また、法律の改正がされる等社会の動きも変化している。事業の進捗のみならず、必要に応じて方向性の転換を行っていただきたい。 ・シルバー人材センターを利用する側に対しても理解を深めていただくために、周知を徹底する必要がある。 ・シルバー人材センターの会員数を単に増やすことを目的とするのではなく、活動に積極的に取り組む意欲のある方々に対して重点的に支援や施策を展開する等、活性化に繋げていただきたい。					

【進捗状況A～D】

A: 順調に推移した(目標達成又は進捗している)
 C: 進捗が遅れている(目標達成が遅れる可能性がある)

B: 一定の進捗がある(目標達成に向け一定の進捗がある)
 D: 進捗が大幅に遅れている(目標達成が難しい可能性がある)

総合計画進行管理シート

戦略PJ名	支える1 アクティブ・シニア応援プロジェクト		主管課	高齢介護課	関係課	—
-------	------------------------	--	-----	-------	-----	---

取り組みの方向		元気高齢者の地域等での活躍の場の創出				
取り組みの展開						
内容	STEP1:社会参加支援の普及拡大		STEP2:交流の場の形成		STEP3:支えあいによる多様な活動の実現	
	よりニーズに合った社会参加の実現に向けた調査・検証を進めるとともに、社会参加支援体制の普及・拡大を図ります。		応援窓口を高齢者に限らない多様な世代が交流する場として活用できる仕組みづくりを進めます。		応援窓口に集う人々の相互の信頼に基づく支えあいにより、自発的・発展的な活動が創出される環境・仕組みづくりを進めます。	
関連実施計画	実施計画事業名	達成状況	実施計画事業名	達成状況	実施計画事業名	達成状況
	高齢者の社会参加促進	B	高齢者の社会参加促進	B		
	高齢者デジタル活用支援事業	B				
① 主管課による一次評価	STEP1の進捗状況		STEP2の進捗状況		STEP3の進捗状況	
	B		B			
	【1. 達成状況】 ・R4年度から窓口をタウンヒルズへ移設したことにより、多くの方へ活動紹介、マッチングすることができた。R7年2月にタウンヒルズの閉館に伴い、市役所1階高齢介護課に移設することになったが、引き続き、趣味やボランティアを中心にマッチングを行った。 ・初心者向けのスマホ教室、相談会を開催し、高齢者の新たな社会参加促進とデジタルデバイドの解消を図った。 ・スマホ教室や市老人クラブ連合会の理事会など高齢介護課が所管している事業などで、アクティブ・シニア応援窓口の周知を行った。 (実績) アクティブ・シニア応援窓口(社会参加)でのマッチング件数: R7 307件、R6 12,649件 窓口来場者数: R7 122人、R6 12,812人 スマホ教室参加者数: 94人、R6 101人 スマホ相談会参加者数: 89人、R6 55人		【1. 達成状況】 ・R4年度から窓口をタウンヒルズへ移設したことにより、高齢者のみならず現役世代を含めた幅広い世代に活動紹介をすることができた。 ・タウンヒルズ閉館に伴い、窓口を市役所に移設して以降は、生涯学習課の所管施設である中央公民館や保健福祉プラザなどで、アクティブ・シニア応援窓口のチラシを配架し、現役世代の利用も見込まれる施設等での広報活動を行った。			
	【2-1. 課題】 R7年2月より高齢介護課に窓口が移設されてからマッチング件数が減少していることから窓口の周知などの方法を改めて検討する必要がある。また、支援期間の終了に伴い、支援継続を希望する方が少なく、社会参加窓口の強みを伝えきれていない状況がある。		【2-1. 課題】 現役世代へのさらなる周知を図るため、チラシの配架以外にも、必要なタイミングでのプッシュ型広報について検討する。		【2-1. 課題】	
	【2-2. 課題への対応】 既存の媒体(広報やHP)だけでなく、効果的な周知方法を検討し、周知を図るとともに、支援希望者にも窓口の取組内容を周知できる手法を検討する。		【2-2. 課題への対応】 現役世代や子供世代が集まるイベントに出席し、アクティブシニア応援窓口のPRや多様な世代の交流を図る。		【2-2. 課題への対応】	
② 企画課による二次評価	STEP1の進捗状況		STEP2の進捗状況		STEP3の進捗状況	
	B		B			
マッチング増加に向けて、窓口の設置場所等について、広く周知していただきたい。 高齢者の目に留まりやすいよう、字が大きいポスターを掲示する等を検討していただくとともに、若年層から高齢者に情報が伝達されることも考えられるため、対象者のみならず広く周知していただきたい。		高齢者以外にも市民が集まるような場面で窓口の場所や具体的な制度の内容などを、口頭での説明及びチラシなどの配布により周知を図っていただきたい。				
③ 外部評価	STEP1～3の進捗状況 (評価:B)					
	【評価コメント】 ・事業の進捗としてはB評価とするが、社会状況の変化や法律の改正に応じて、施策の方向性を調整していただきたい。 【要望・意見】 ・例えば年間延300人が利用しているとしても、それは「一人が300日利用」でも同じ結果になる。しかしそのような場合、一人のために多額に税金が投入されていることになってしまう。延300人であるならば、極論「300人が1回」使用するほうが公共性は高まる。特定の人ばかりが利用するのではなく、多くの人が利用したいと思えるような魅力ある内容にしてほしい。 ・子どもと高齢者が触れ合う機会が少ない。昔の遊びを知らない子どもも多いので、子どもと高齢者が触れ合える機会を創出していただきたい。					

【進捗状況A～D】

A: 順調に推移した(目標達成又は進捗している)

C: 進捗が遅れている(目標達成が遅れる可能性がある)

B: 一定の進捗がある(目標達成に向け一定の進捗がある)

D: 進捗が大幅に遅れている(目標達成が難しい可能性がある)

総合計画進行管理シート

戦略PJ名	支える3 大規模自然災害対策プロジェクト		主管課	危機管理課		関係課	—		
取り組みの方向								地域の防災・減災力の向上	
取り組みの展開									
内容	STEP1:市民等への防災意識啓発の強化			STEP2:担い手の拡充			STEP3:新たな地域防災の仕組みづくり		
	防災訓練等を通じた意識啓発の強化、防災教育の推進等により、防災意識の向上を図ります。また、避難所、防災倉庫、備蓄の充実・見直し等を進めます。			自主防災組織への支援や防災リーダーの育成・活動支援等により、地域防災の担い手の育成・拡充と共助の体制づくりを進めます。			一人一人の高い自助意識を基に、地域の共助の体制を生かした新たな地域防災の仕組みづくりを検討・推進します。		
関連実施計画	実施計画事業名		達成状況	実施計画事業名		達成状況	実施計画事業名		達成状況
	防災意識啓発		B						
① 主管課による一次評価	STEP1の進捗状況		B	STEP2の進捗状況		B	STEP3の進捗状況		
	【1. 達成状況】 防災訓練や講演会、防災講座等を通じて、防災意識を啓発することができた。 また、備蓄品の備蓄量の判断基準となる対象地震の見直し(大正型→都心南部直下型)を行い、備蓄品の内容も含め見直しを行っている。			【1. 達成状況】 地域防災リーダーを「避難所運営調整会議」及び「避難所開設訓練」への参加させることで、地域防災リーダーの役割を明確化し、当該制度の活性化を図った。 避難所運営委員会の活性化を図るために、避難所運営調整会議の際に、避難所運営マニュアルの「細部要領」の作成することとし、運営委員会自らが避難所運営の細部について検討できる体制とした。			【1. 達成状況】		
	【2-1. 課題】 避難所の簡易ベッド数は高齢者用分のみで、他の避難者は毛布などを床にひいて生活する必要があるため、健康被害などが懸念される。 また、避難所用の給水タンクは農業用タンクで代替しているおり、効率的な給水ができない。			【2-1. 課題】 地域防災リーダー及び避難所運営委員会のさらなる活性化のために、支援を継続していく必要がある。			【2-1. 課題】		
	【2-2. 課題への対応】 各避難所の収容可能人員に見合った簡易ベッドを整備する。 各避難所に災害用に実績のある「応急給水タンク」を整備する。 能登半島地震の教訓に基づき、スフィア基準の観点から内閣府が改訂した避難所運営マニュアル等に基づき現状調査を行い、今後の避難所の整備方針の参考とする。			【2-2. 課題への対応】 地域防災リーダー及び避難所運営委員会のメンバーによる「防災ワークショップ」を開催し、意見交換などを行うことで、さらなる活性化を支援する。			【2-2. 課題への対応】		
② 企画課による二次評価	STEP1の進捗状況		B	STEP2の進捗状況		B	STEP3の進捗状況		
	講演会の実施、小・中学生を対象とした防災教育などを通して図られている。 引き続き、防災意識の向上に取り組んでいただきたい。併せて、地域防災の担い手の育成・拡充と共助の体制づくりを進めていただきたい。			地域防災リーダーの役割の明確化と避難所運営調整会議や開設訓練への参加促進など、組織力強化に向けた取り組みが進んでいると評価する。 今後は、「防災ワークショップ」の開催による意見交換を通じて、地域防災リーダー及び運営委員会の一層の活性化に努めていただきたい。					
③ 外部評価	STEP1～3の進捗状況 (評価: C)								
	【評価コメント】 ・他の部局とも連携し、いつ発生するかわからない災害に対してさらに様々な準備や対策を進めていただきたいため、C評価とする。 【要望・意見】 ・もっと多くの市民に訓練や講演会等に参加してほしい。より災害に対する意識を持っていただくため、災害の現実をしっかりと伝えられる内容の周知啓発をお願いしたい。 ・地域防災リーダーの役割の明確化や理解促進に努めていただきたい。 ・各研修や講座の開催回数や時期、場所等、より多くの方に参加していただけるよう検討していただきたい。 ・学校や、保育園・幼稚園とも連携し、子ども達に対して防災意識を向上させる施策を検討していただきたい。 ・起震車を使用して災害の恐ろしさを体験できるような機会の創出を検討していただきたい。								

【進捗状況A～D】

A: 順調に推移した(目標達成又は進捗している)

C: 進捗が遅れている(目標達成が遅れる可能性がある)

B: 一定の進捗がある(目標達成に向け一定の進捗がある)

D: 進捗が大幅に遅れている(目標達成が難しい可能性がある)

総合計画進行管理シート

戦略PJ名	支える3 大規模自然災害対策プロジェクト				主管課	危機管理課		関係課	—												
取り組みの方向										復旧・復興対策の充実											
取り組みの展開																					
内容		STEP1: 復旧・復興体制の整備					STEP2: 円滑な復旧・復興体制の構築					STEP3: 実施に向けた体制整備									
		地域防災計画の復旧・復興計画見直しや災害廃棄物処理計画の運用等による復旧・復興体制の整備を進めます。					他の自治体、関係事業者及び災害ボランティアとの連携を図る等、迅速かつ円滑な復旧・復興体制を構築します。					速やかな対応に向けて、災害対策本部を中心とした体制を整備するとともに、復旧・復興訓練等の実践的な取り組みを進めます。									
関連実施計画	実施計画事業名				達成状況	実施計画事業名				達成状況	実施計画事業名				達成状況						
	地域防災計画等改訂業務				B																
① 主管課による一次評価	STEP1の進捗状況			B		STEP2の進捗状況			B		STEP3の進捗状況			B							
	【1. 達成状況】 地域防災計画については、令和6年度からの3か年計画により、外部委託による改定作業を行い、令和8年5月開催の防災会議において承認を得た。					【1. 達成状況】 近隣市及び遠方市との相互応援協定、事業者との応急復旧業務協定や物資供給等の協定等を締結している。 社会福祉協議会主催の災害ボランティアセンター開設訓練に参加している。					【1. 達成状況】 令和7年度、本市では初めてとなる災害対策本部開設訓練を行い、大規模災害発生時における各対策部の初動対処要領について訓練を行った。										
	【2-1. 課題】 計画の改定はしたものの、依然として、復旧・復興にかかる庁内訓練は行っていないため、計画の実行性担保が課題である。					【2-1. 課題】 協定先との実動訓練がなされていないため、協定の実行性担保が課題である。					【2-1. 課題】 復旧・復興フェーズにおける訓練は行えていない。										
	【2-2. 課題への対応】 防災関連計画の改定が終了する来年度以降、改訂した計画に基づく、災害対策本部の開設訓練等を行っていく。					【2-2. 課題への対応】 他市町村や関係機関からの応援を円滑に受け入れるための受援計画については、今年度中に策定予定。 STEP1と同様に、改定した計画に基づく、災害対策本部の開設訓練等において、協定先等との連携についても訓練を重ねていく。					【2-2. 課題への対応】 STEP1と同様に、改定した計画に基づく、災害対策本部の開設訓練等において、復旧・復興フェーズについても、訓練を計画していく。										
② 企画課による二次評価	STEP1の進捗状況			B		STEP2の進捗状況			B		STEP3の進捗状況			B							
	地域防災計画等改訂業務により、担当課のみでなく庁内全体で取組が進められている。 今後は、「STEP2 円滑な復旧・復興体制の構築」に向けて、他の自治体、関係事業者等との連携を図る等、復旧・復興体制の構築にも取り組んでいただきたい。					協定締結など、体制の構築に向けた取組みが進められている。 今後は、改訂業務を進めていくほか、改定した計画に基づく、災害対策本部の開設訓練等において、協定先等との連携についても深めていただきたい。					災害対策本部開設訓練の実施など、取組みが着実に進められている。 今後は、復旧・復興フェーズについても、関係課と連携し実効性のある体制の確保に努めていただきたい。										
③ 外部評価	STEP1～3の進捗状況（評価：C）																				
	【評価コメント】 ・様々な視点から災害が発生した場合の被害を想定し、今後も対策を進めていただきたいため、C評価とする。 【要望・意見】 ・自治会やPTA頼りになっているところ、課題解決に向けて取り組んでいただきたい。																				

【進捗状況A～D】

A: 順調に推移した(目標達成又は進捗している)
C: 進捗が遅れている(目標達成が遅れる可能性がある)

B: 一定の進捗がある(目標達成に向け一定の進捗がある)
D: 進捗が大幅に遅れている(目標達成が難しい可能性がある)